

52

20歳以上の身体抑制率

自院

指標の意義

身体抑制は、制限の程度が強く、また、二次的な身体的障害が生じる可能性もあるため、代替方法が見出されるまでのやむを得ない処置として行われる行動の制限です。できる限り早期の他の方法に切り替えるよう努めなければなりません。やむを得ない身体抑制が適切かを見る指標です。

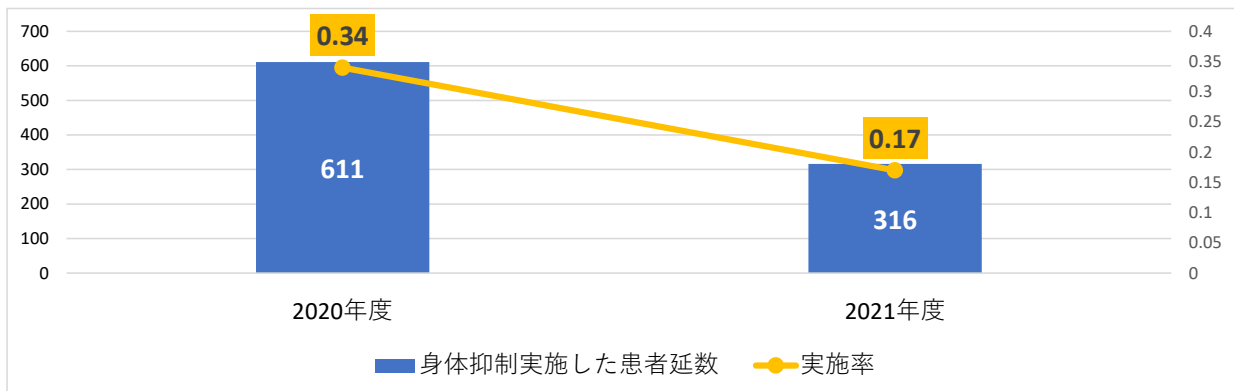
定義

分子 分母のうち（物理的）身体抑制を実施した患者延数×100

分母 20歳以上の入院患者延数

当院の実績

	2020年度	2021年度	
身体抑制実施した患者延数	611	316	※ 離床センサーは除く
20歳以上の入院患者延数	179,238	184,512	
実施率	0.34	0.17	(%)



指標の説明

身体抑制率は0.5%未満であり、①切迫性②非代替性③一時性の3つすべてに当てはまらないと抑制してはならないという必須条件を遵守しています。抑制時には観察やカンファレンスは毎日行っていますが記録が漏れることがあるためわかりやすい記録の整備をしていくことが必要と考えます。

※ 当院では離床センサーの装着は非抑制としています。患者の安全を守り患者の行動欲求を満たすことを目的とした、すなわち患者の尊厳を保持するためにナースコールの代替えとして離床センサーを使用しています。患者の行動を制限するための離床センサー使用は禁止しています。離床センサーは認識と目的次第では「抑制」にも「自立支援」にもなり得る事をスタッフへ教育しています。

53

臨床倫理委員会への報告・相談件数

自院

指標の意義

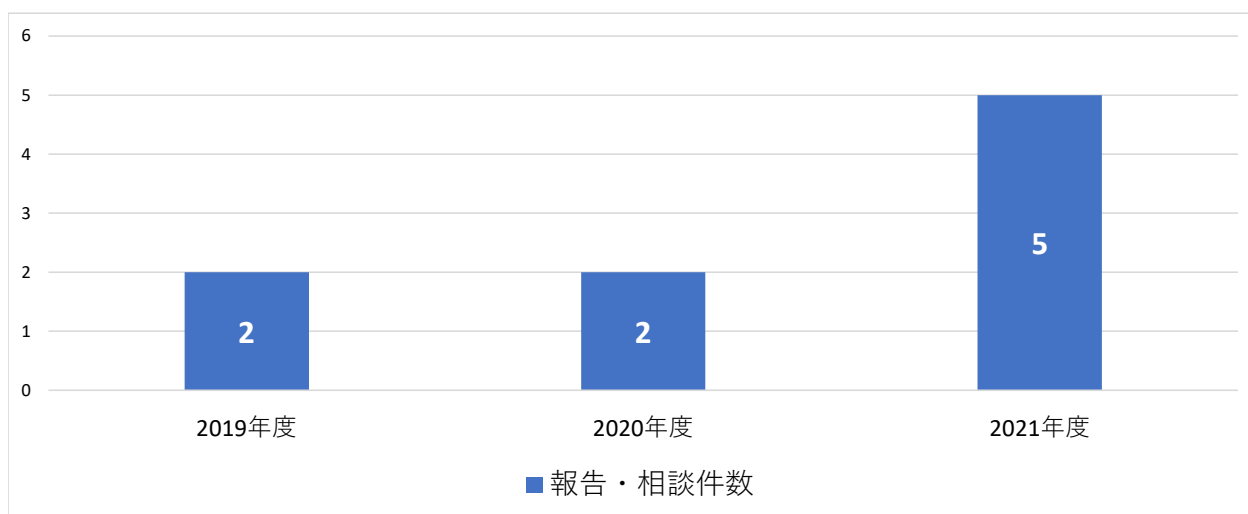
臨床の様々な場面で生じる倫理的課題の中でも当事者間で解決困難な問題や課題について、自部署だけでなく、組織で取り組んでいる状況を示す指標となる。

定義

1年間の臨床倫理委員会(倫理コンサルテーションチームを含む)への報告・相談件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度
報告・相談件数	2	2	5



指標の説明

2021年7月に「対応困難な場合の倫理コンサルテーション依頼・対象フロー」を作成し、医師・看護師に周知した影響もあり、2021年度は件数が増えてきている。臨床コンサルテーションチームへの主な相談内容は、治療方針の意思決定に関わる問題や患者の自立と安全に関わる問題、終末期治療の方針に関わる問題などでした。引き続き相談件数の増加を図るよう更に職員へ周知していきます。

54

カルテ開示数（手続きによる開示）

自院

指標の意義

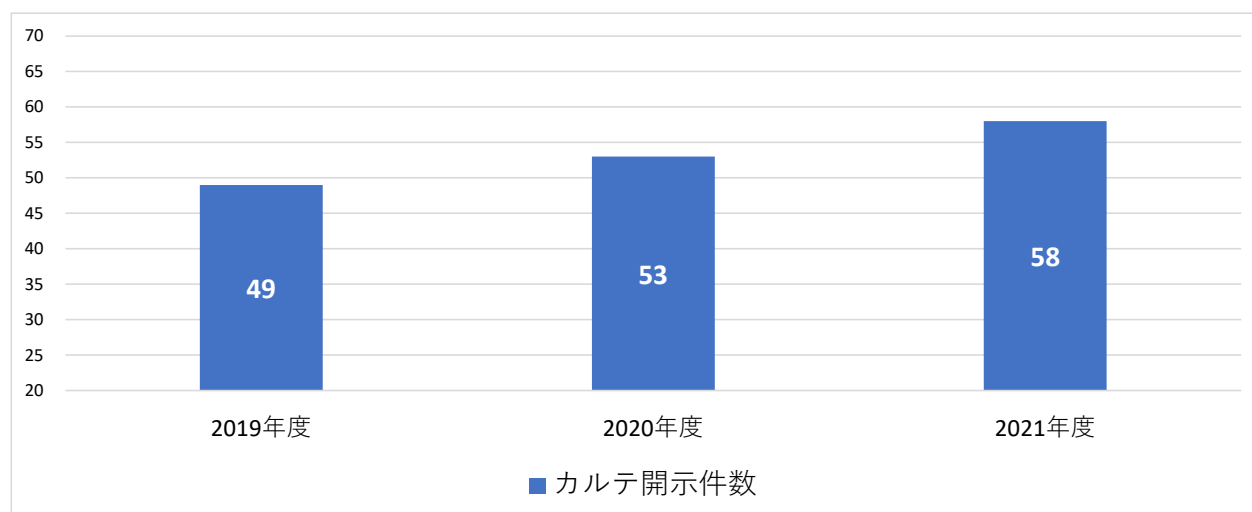
カルテ開示を行うことで、患者さん等と診療情報を共有した適切なパートナーシップに基づく良質な医療の提供が出来るような体制を整えることに繋がります。

定義

1年間のカルテ開示件数（手続きによる開示）

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	
カルテ開示件数	49	53	58	(件)



指標の説明

カルテ開示とは、患者さん等からの求めに応じて診療録等の閲覧・謄写交付を行うことです。この場合、個人情報保護を念頭におき、プライバシーの保護及び診療上の支障が生じないこと等を確認したうえで診療記録を提供します。

カルテ開示を行うことで患者さん等が診療内容に対する理解を深め、医療従事者と共同して疾病を克服するなど、病院との間により良い信頼関係を構築することが可能となります。また、医療従事者の教育の充実を図るとともに、診療記録の記載方法および用語等の標準化を図ることができるため、医療の質向上に繋がります。

当院のカルテ開示件数は、年々増加の傾向を示しています。

55

患者・家族等の相談件数

自院

指標の意義

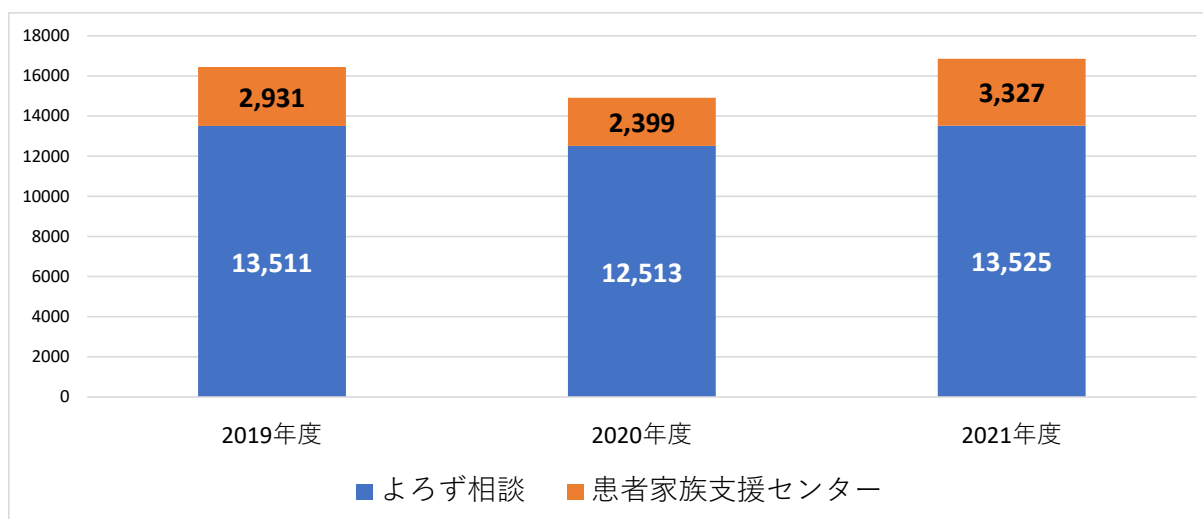
当院では、「よろず相談（がん患者相談支援センター）」がん患者さんやご家族の抱えているがんに対する悩みや疑問に対して、MSW（医療ソーシャルワーカー）、看護師が対応し、「患者家族支援センター」の多職種と連携しながら、あらゆる相談に対応しています。がん医療に求められる「治し支える医療」を図る指標の一つです。

定義

- ① よろず相談で受けた患者・家族等からの相談件数
- ② 患者家族支援センター関与した相談件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	(単位：件数)
よろず相談	13,511	12,513	13,525	
患者家族支援センター	2,931	2,399	3,327	
相談件数	16,442	14,912	16,852	



指標の説明

- ・よろず相談に寄せられる相談は、一般県民および県外在住者からのがんに対する悩みや疑問、静岡がんセンターに受診・入院している患者・家族からのくらしや仕事・学業などへの相談です。相談件数は、年間13,000件余りで、就労・経済的負担や在宅療養に関する相談件数が増加しています。
- ・患者家族支援センターでは、2020年度は対応する専門・認定看護師の不足から一時的に減少しましたが、2021年度は支援体制を強化したことから増加がみられています。今後も体制を維持しながら当院の患者・家族からの相談に対応していきます。

56

就労・就学支援相談件数

自院

指標の意義

就労可能年齢のがん患者さんが増加しており、仕事をつづけ「生活の質」を維持しながら治療を継続するための支援が必要です。また、小児・AYA世代のがん患者さんに対しての就学支援として、療養中であっても教育の保証や居場所作りを推進しています。就労・就学支援相談件数は、こうした支援の状況を見る指標です。

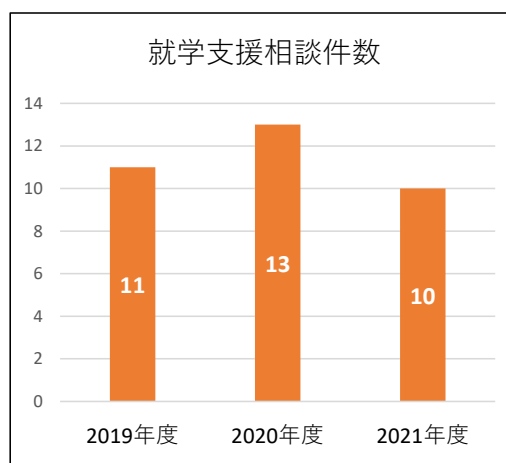
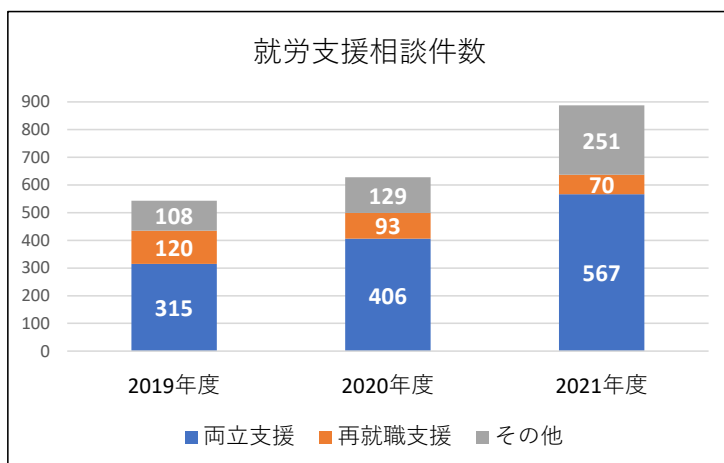
定義

よろず相談での就労支援相談件数（両立支援件数＋再就職支援件数＋その他の件数）

よろず相談での就学支援相談件数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度
就労支援相談件数	543	628	888
就学支援相談件数	11	13	10
就労・就学相談件数	554	641	898



指標の説明

- ・就労支援では、2020年4月より「療養・就労両立支援指導料」算定に向け、休職・復職のタイミングで相談室を利用する院内体制を整備したことにより、件数が増加しました。
- ・就学支援は、小児科入院患者さんを対象に個別相談・支援を実施しています。指標では、学校との合同カンファレンスの開催など、機関間連携を行った件数を集計しています。

57

SCCホームページ：患者支援・相談の閲覧件数

自院

指標の意義

患者さんやご家族は、がん治療の様々な場面で多くの悩みや負担に遭遇します。静岡がんセンターでは積極的な支援を心掛けています。ホームページの「患者支援・相談」コンテンツには、「がん治療に伴う、患者さんご家族の様々な悩み」の「診療上の悩み」「心の苦悩」「身体の苦痛」「暮らしの負担」に関するがん体験者の悩みに沿った助言を閲覧することができます。閲覧状況、患者さんやご家族の悩みの傾向を分析し、必要な情報提供を進める上で重要な指標です。

定義

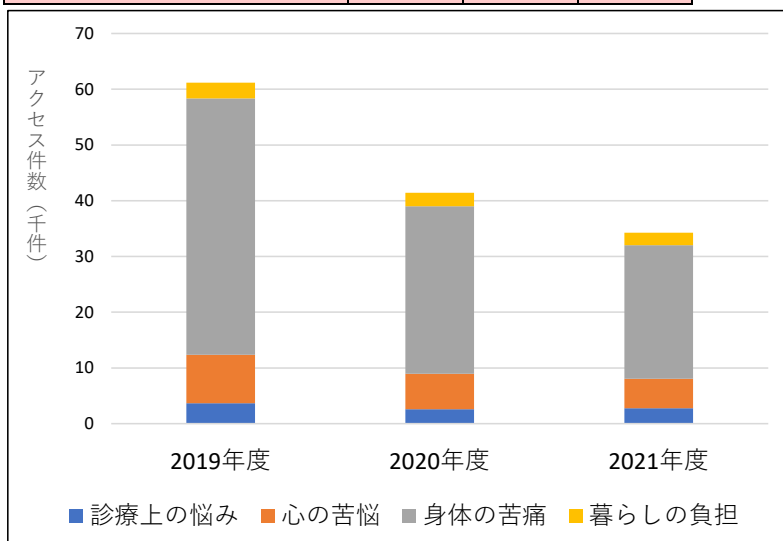
ホームページ：患者家族支援コンテンツの「がん治療に伴う、患者さんご家族の様々な悩み」の閲覧数

<https://www.scchr.jp/supportconsultation.html>

- ①「診療上の悩み」に関する悩みや助言の閲覧数 ③「身体の苦痛」に関する悩みや助言の閲覧数
②「心の苦悩」に関する悩みや助言の閲覧数 ④「暮らしの負担」に関する悩みや助言の閲覧数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	(件)
診療上の悩み	3,674	2,586	2,755	
心の苦悩	8,674	6,361	5,293	
身体の苦痛	46,023	30,046	23,964	
暮らしの負担	2,802	2,425	2,227	
閲覧数	61,173	41,418	34,239	



【閲覧数が多かった悩み】

診療上の悩み
・治療への気がかり ・医療者とのコミュニケーション ・セカンドオピニオン
心の苦悩
・不安（再発・転移など） ・気持ちが不安定 ・家族への影響・気がかり
身体の苦痛
・手術の後遺症 ・放射線療法の副作用・後遺症 ・抗がん剤治療の副作用
暮らしの負担
・家族への影響・気がかり ・経済的な問題 ・仕事への影響

指標の説明

「がん治療に伴う、患者さんご家族の様々な悩み」は、2003年と2013年に実施した全国調査結果を整理して構築したがん体験者の悩みデータベースに基づき、がん体験者の方々の悩みや負担を和らげるための助言や日常生活上の工夫などの情報ツールです。閲覧数は2019年度をピークに、2021年度は3万4千件程度ありました。特に多く閲覧されていた項目は「身体の苦痛」（70%）で、そのうち「手術の後遺症」が半数を占めていました。「診療上の悩み」では「治療への気がかり」（20%）、「医療者とのコミュニケーション」（10.9%）、「心の苦悩」では「不安（再発・転移など）」（22.4%）、「暮らしの負担」では「経済的な問題」（19.3%）、「仕事への影響」（16.4%）等です。